

留学生と日本社会

見えない文化を考えてみよう／話し合ってみよう

- (1) せっかちな人・・・時間感覚
- (2) 席の配分・・・相手との距離、配慮
- (3) 本山原人進化論「留学生とふれあいたいけど」・・・人間関係の作り方
- (4) 多様化した現代一人間性測れない・・・価値観
- (5) 引っかかる同じ撮影ポーズ・・・スタイル(みんな一緒がいい?)

まとめ

人間社会の時間文化についていえば、欧米人より日本人の方がせつかちと見られている。精神科医の高橋祥友氏は著書「英語力を身につける」で、ドイツ人の知人の話しを紹介している。

ホームパーティーを開く時には、アメリカ人やヨーロッパ人には定刻を教え、日本人には三十分遅い時間を教える。欧米ではホームパーティーは、少し遅れていくのが常識。ところが日本人は定刻か、それより早く来てしまう人が多いからだそうだ。

同僚のSさんが、釣り仲間を自宅に招いて夫妻の手料理を「ちそうした。閉口したが、人によって訪問時間がまちまちだったこと。

一番の困りものは、何の連絡もなく一時間も遅れた人。全員そろったら乾杯して、料理を順に出す予定だったので、他の人をだいぶ待たせてしまった。

二番目が、定刻より三十分も早く来た人。夫妻が頭から湯気を出して準備をしている最中にやってきた。「正直言って迷惑しました」とSさん。

そんな体験から夫妻がたどり着いた理想的な訪問時間とは???

★ あなたは、他の人から自宅に招かれた場合、どんなタイミングで玄関のベルをならしますか？

★ 理想的な訪問時間を含めて、時間感覚について話し合ってください。

電車の七人掛けの席で左はしに座っていたとします。右隣は若い男性。さらに右の人が、降りるために立った。一・二人分のスペースを占めていたことが、座席に示されている、標準位置のしからわかる。若者と私は、一・八人分の幅に詰め込まれていたわけだ。

当然、若者が右にずれ、二人分に「是正」するものと思いますよね。

ところが、動かない。かばんを抱えなおすふりをして、若者の膝にさりげなくふれさせてみたりするが、反応なし。相変わらず、携帯電話の画面を見つめている。操作に集中しているから、気が回らないとの解釈も成り立つだろう。では、つぎの場合はどうか。

同じく私が左はし。右は二人ずれである。私から離れている方が「じゃ、また」と先に降りていった。私と隣の若者に与えられていたスペースはやはり一・八人分。若者にすれば、まっ先に右へ移動し、私との間をあげたいだろうと想像される。が、案に相違し、腰を据えたきり、漫画本を取り出す。

そういうことが、とても多い。

「今の若者は、自分だけの世界にこもり、全体への目配りができない」と評される。が、それとは別に、何かこう車間距離ならぬ人間距離に対する感覚が、変わってきているのではないかしら。

なぜって、自分が窮屈なのだから、嫌ならば、他人のことを考える以前に、離れるだろう。が、若者は意に介さず、人の脚に脚をくっつけたまま、漫画本をめくっている。やがてあくびをひとつして、そのまんまの姿勢で眠りはじめた。接触を不快と感じるセンサーすら、もはや機能していないのではと、電車に乗るたび思うのだ。

たとえば、今度は私が、左はしから二番目にかけていたとする。駅に近づき右隣がたちました。左の中年男性は、身じろぎや視線なりで、プレスチャーをかけてくる。

「この機にもっと右へ行け。駅に着いてからは人に座られ、スペースを広げられないぞ」と。

私は席のしるしから、今占めているのが、ちょうど二人分と判断すれば、頑なに踏みとどまる。それは、信念とそこそこの精神力とを要する。果たして、駅で大勢乗ってきて、否応なしに詰め合わせる状況になるとほっとする。逆に、電車が走り出しても誰も来ないと居心地が悪い。しぶしぶと右へずれるが、間違っても既得権と思われることのないよう「あくまでも暫定措置ですよ」とのプレスチャーを左隣にかけ返しているつもりだ。

隣の男性にしたら、私が若者のことを思っているのと同じ、単なる「周囲の見えないやつ」なんですよ。ね。

★ あなたが「私」だったら、「こんな時どうしますか？」

★ あるいは、あなたが「隣の若者」だったらどうしますか？

名古屋大学の留学生数は一一九四人(五月現在)で、全学生数に占める留学生の比率七・二%は全国でもトップレベル。

半年前に名大に来たマレーシア人Jさんには親しい日本人学生がいない。来日当初、留学生との交流サークルの学生たちから、食事やボーリングに盛んに誘われ、できるだけ参加した。しかし、誘いは次第に減り、今では学内で出会っても挨拶する程度。「日本人学生と仲良くなりたいが現実には難しい。私の積極性が足りないのが原因かもしれないが」と悩む。

名大の学生食堂では正午になると、押し寄せた学生たちが長い列を作る。おしゃべりがこたまする食堂内を見回すと、同じテーブルに固まって食事をとっている留学生のグループが目につく。昨年十月に来日したインド人Aさんは「日本人学生は、留学生を分けて考える意識が強い。」彼女が住む学生寮で、ある時共同キッチンの汚れが問題になった。「留学生の人へ、きれいにつかってください。」という紙が……。日本人学生もいるのに、なぜ留学生だと決め付けるのか」

一方、日本人学生の思いは。

法学部のYさんは「外国人の友達がほしいとは思いますが、文化、言葉の壁を感じてしまう。どういふ距離感で、どう友達になっていいか、わからない。」中には「英語は苦手、日本人同士の付き合いだけで十分。」という声も。

留学生センターのN教授は「留学生が増えているのに国際交流の意識が学生全体で共有されていないのが歯がゆい」「最大のハードルは語学レベルの低さ。もう少し外国語の力があれば、全体的に国際化が広がると思う。語学力を強化するカリキュラムが不可欠」と話す。

しかしある学生によると「本山にある英会話学校は名大生であふれている」とも。決して外国語に関心がないわけでもないらしい。

本音では外国人とふれあいたいと思う学生たち。身近には留学生もあふれている。なのに生かすきれない。もったいない！

★ あなたは留学生と日本人学生が親しくなるのは難しいと思いますか？

もし、「はい」の場合、それはどうしてですか？

★ お互いに親しくなるために大切なこと、気をつけたいことは何だと思えますか？

多様化した現代—人間性測れない

(毎日新聞「こえ—伊藤弘子」より抜粋)

つい先日、三五歳の娘を持つ友人から、交際している彼と結婚したいと言っているが、大卒の娘にとって相手の学歴がつりあわないと思ひ反対したという話を聞かされた。私は改めて、学歴とは一体なんだろうかと考えさせられた。

日本がまだ、今のような豊かさを見ない時代には学歴がその人を評価するという物差しがあった。ところが、生活に繁栄を見いまは、大学卒業が常識とまで言われている。それにつれて、生活も多様化してきて、個人の能力がものをいう世になり、学歴ばかりにこだわってはいられない。学歴がよいかから人間性も秀でていくという結びつきはお門違いだ。学歴の有無が生活に支障をきたすものでもない。学歴が人間性を測る物差しであってはならないと、私は思っている。

★ あなたは「学歴」についてどう考えますか？

★ あなたは自分が「高等教育」を受ける機会に恵まれたことをどう思いますか？

引っかかる同じ撮影ポーズ

(毎日新聞「みんなの広場—須佐見陽子」より抜粋)

少し前、テレビである若い有名な女性の子供のころの写真は何枚も見た。

驚いたことに、赤ちゃん時代のものを除いて、すべてピースサインをしているのである。一人だけのものも、集合写真も同じポーズをとっている。何か異様な感じを受けたのは私だけだろうか。

どうやら、この傾向は彼女だけではないようだ。若い人が写真をとってもらっているところに出くわすことが時々あるが、これまた、判で押したようにほとんどがピースサインをしている。特に女性に多い。

写真撮影の際、どんなポーズをとるかは個人の自由である。他人がとやかく言う筋合いのものではないかもしれない。しかし、猫も杓子も同じポーズというのはどうも引くかかる。

ファッションモデルのように、いろいろな格好を決めるとまではいわないが、もう少しバラエティーに富んでいてもいいのではないか。これも横並び現象の一つだろうか。

★ この意見をどう思いますか？

★ どうして、ピースサインをするのでしょうか？